

口腔疫対策支援に際する 急性過重労働の影響

—宮崎県内地方公共団体職員における検討—



労働者健康福祉機構
宮崎産業保健推進センター

小 岩 屋 靖

牛 谷 義 秀

平成 23年度調査研究発表会

於：ソリッド・スクウェアホール 11/12/2012

本県の年間予算

5,773億円

(平成22年度)

農業産出額

3,073億円

(全国第5位, 21年)

◆**県内経済への影響額 (推計)**

約2,350億円

- ・畜産業・畜産関連業 約1,400億円
- ・その他産業 約950億円

口蹄疫復興対策(2010年8月)

◆**支援作業従事者 延べ約158,500人**

●**支援期間 4月24日～8月26日**

●**他都道府県 約5,000人**

(含 獣医師約1,150人)

- ・自衛隊員 約18,500人
- ・警察官(県外含む) 約38,000人

●**宮崎県**

- ・県職員 約48,000人
- ・**地方公共団体職員 約18,000人**
- ・団体(JA等) 約16,500人

口蹄疫復興対策本部 (2010年8月)

口蹄疫対策支援に際する 急性過重労働の影響の検討

背景: ①当県では自然災害が繰り返している, ②当該団体は積極的に支援活動等を行ってきた, ③急性労働負荷や長時間労働, 過重労働等(急性過重労働等)の軽減や回避等の対策にも取り組んできた.

目的: ①口蹄疫の防疫業務が人体に与える影響を明確にして, ②今後の急性過重労働等発生時の対策の基盤整備に資するとともに, ③これらの軽減～回避策を検討する.

対象: ①平成22年4月24日か～8月27日の間に, ②防疫業務に従事した当該公共団体職員中, ③4～8月の口蹄疫関連の超過勤務時間が80時間以上, 100時間未満の職員(超過勤務時間は, 人事課が管理する時間外勤務命令票から算出).

対象:

口蹄疫関連の超過勤務時間が

80 ≤ ~ < 100時間/月の者

※超過勤務時間は、人事課管理の時間外勤務命令票から算出、
超過勤務時間は<100時間/月に管理されている

防疫措置等支援に際する長時間労働者数、自己チェック票提出者数等

	4月	5月	6月	7月	8月	延べ 人数	実人数
80時間超者 (人)	0	87	85	63	0	235	152
自己チェック 票提出者 (人)	0	72	20	11	0	103	93
要面談者 (人)	0	29	5	1	0	35	32
面談 不要者 (人)	0	43	15	10	0	68	68

支援期間は4/24~8/26

消毒作業等への従事者の年齢 21~58歳, 平均40.5歳
家畜の殺処分等への従事者の年齢 21~58歳, 同39.9歳

自己チェック票提出者数等と、比較検討の対象

22年度一般健康診査結果

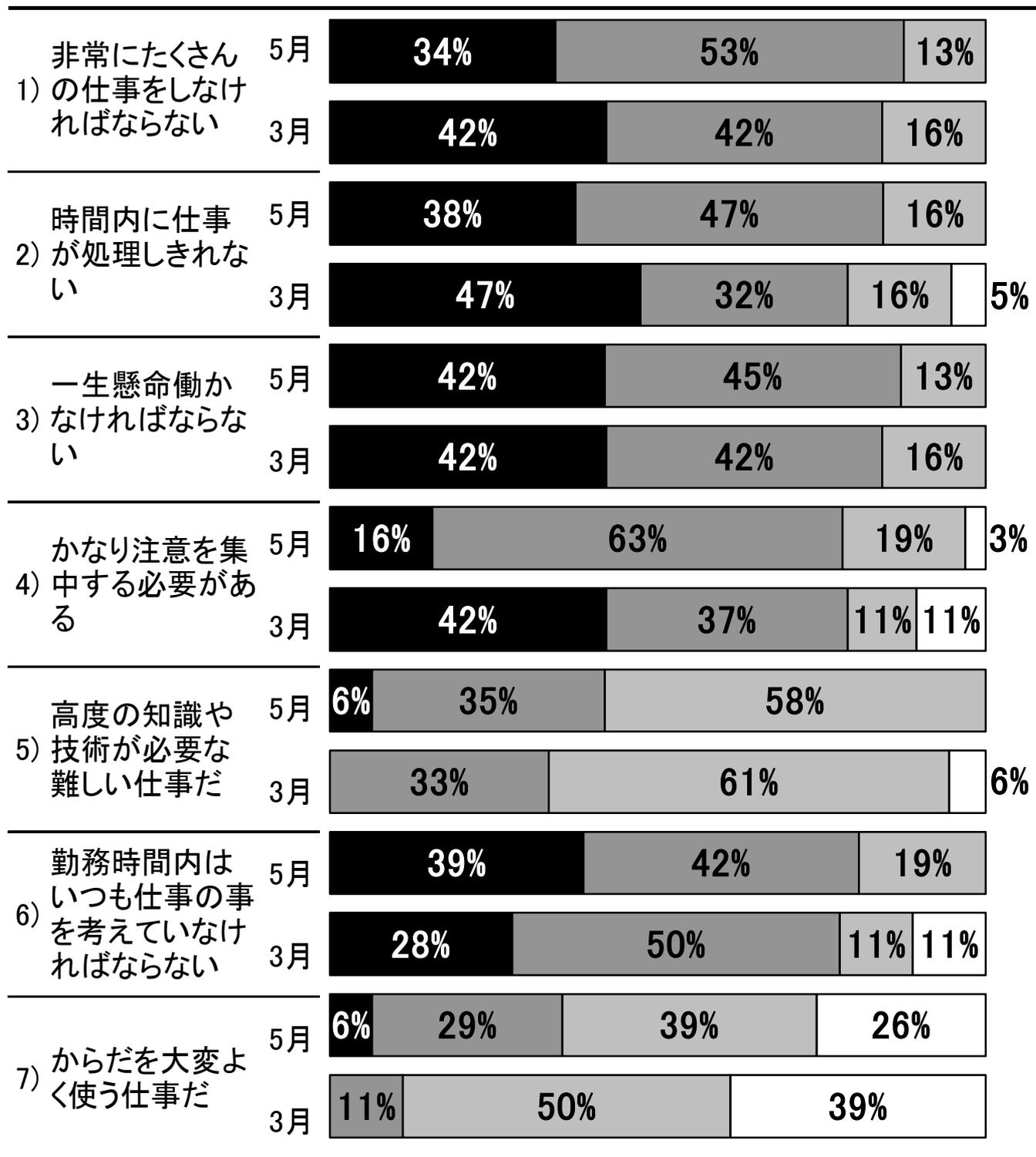
防疫措置等支援に際する長時間労働者数、自己チェック票提出者数等

	4月	5月	6月	7月	8月	延べ人数	実人数
80時間超者 (人)	0	87	85	63	0	235	152
自己チェック票提出者 (人)	0	72	20	11	0	103	93
要面談者 (人)	0	29	5	1	0	35	32
面談不要者 (人)	0	43	15	10	0	68	68

自己チェック票
(23/3施行)

23年度一般健康診査結果

図1.平成22年5月と平成23年3月の仕事による負担度(自己チェック票B1-1)の比較



■ そうだ □ まあそうだ □ ややちがう □ ちがう

図2. 平成22年5月と平成23年3月の自分の 感じていること(自己チェック票A1)の比較

1) 労働時間(残業時間)が長い	5月		35%	40%	15%	10%	
	3月		19%	22%	22%	27%	
2) 不規則勤務である	5月		11%	21%	16%	48%	
	3月	6%	8%	24%		59%	
3) 拘束時間の長い勤務である	5月		20%	37%	17%	22%	
	3月		9%	23%	23%	44%	
4) 出張が多い業務である	5月	2%		93%			
	3月	1%	5%		94%		
5) 交替制勤務が多い	5月		6%	3%		92%	
	3月		6%			94%	
6) 深夜勤務が多い	5月	3%	8%	12%	13%	69%	
	3月	2%	7%			88%	
7) 人間関係のストレスが多い業務である	5月	3%	16%	34%		47%	
	3月		8%	13%	30%	50%	
8) 作業環境について							
	温度環境が良くない	5月	3%	20%	28%	50%	
		3月	3%	20%	26%	51%	
	騒音が大きい	5月	1%	12%	26%	63%	
	3月	1%	6%	21%	72%		
9) 精神的緊張の高い業務である							
	自分または他人に対し危険度の高い業務	5月	2%	10%	30%	58%	
		3月	1%	7%	21%	74%	
	過大ノルマのある業務	5月	6%	13%	33%	50%	
		3月	5%	10%	23%	64%	
	達成期限が短く限られている業務	5月		10%	35%	20%	36%
		3月	6%	26%	21%	50%	
	トラブル・紛争処理業務	5月	2%	14%	35%	49%	
		3月	3%	12%	34%	53%	
	周囲の支援のない業務	5月	1%	8%	33%	58%	
	3月	1%	7%	31%	63%		
困難な新規・立て直し業務	5月		17%	26%		57%	
	3月	2%	12%	27%		62%	

■ そうだ □ まあそうだ □ やや違う □ 違う

防疫支援業務従事者と庁舎内通常業務に 復帰後の自己チェック票の記述内容の比較

防疫支援業務
従事中

庁舎内通常業務
(復帰5ヶ月後)

仕事の質

高度知識や技術
注意の集中

≒
≒

精神・肉体的負担

仕事の量
時間外労働
不規則勤務
深夜勤務
長時間労働

>>
>
>
>
>

自覚症状

イライラ
不安
憂鬱
不眠
意欲低下
疲弊

>>
>>
>>
>>
>>
>>

防疫支援業務従事者と庁舎内通常業務に復帰後の自己チェック票の記述内容の比較

- ① 高度の知識や技術と、注意の集中を要し、時間内に処理しきれない程多くの仕事の処理を求められる
- ② 時間外労働や不規則勤務、深夜勤務、精神的・肉体的負担が多い
- ③ イライラや不安、憂鬱、不眠、意欲低下、疲弊等の自覚症状をより高頻度に伴う

等の結果を得た

⇒支援作業の現場における作業の内容が不明、あるいは、目的が分からないままでの長時間の待機等が強く関与していたと思われる

埋却作業等を担う職員のコメント



埋却作業においては

1. 降ろされた牛に掛けられたロープを外す
2. 石灰を散布 等を担当した

⇒ クレーンでつりさげられた巨大な牛を穴の中から見ると、その真下にいる感じがした

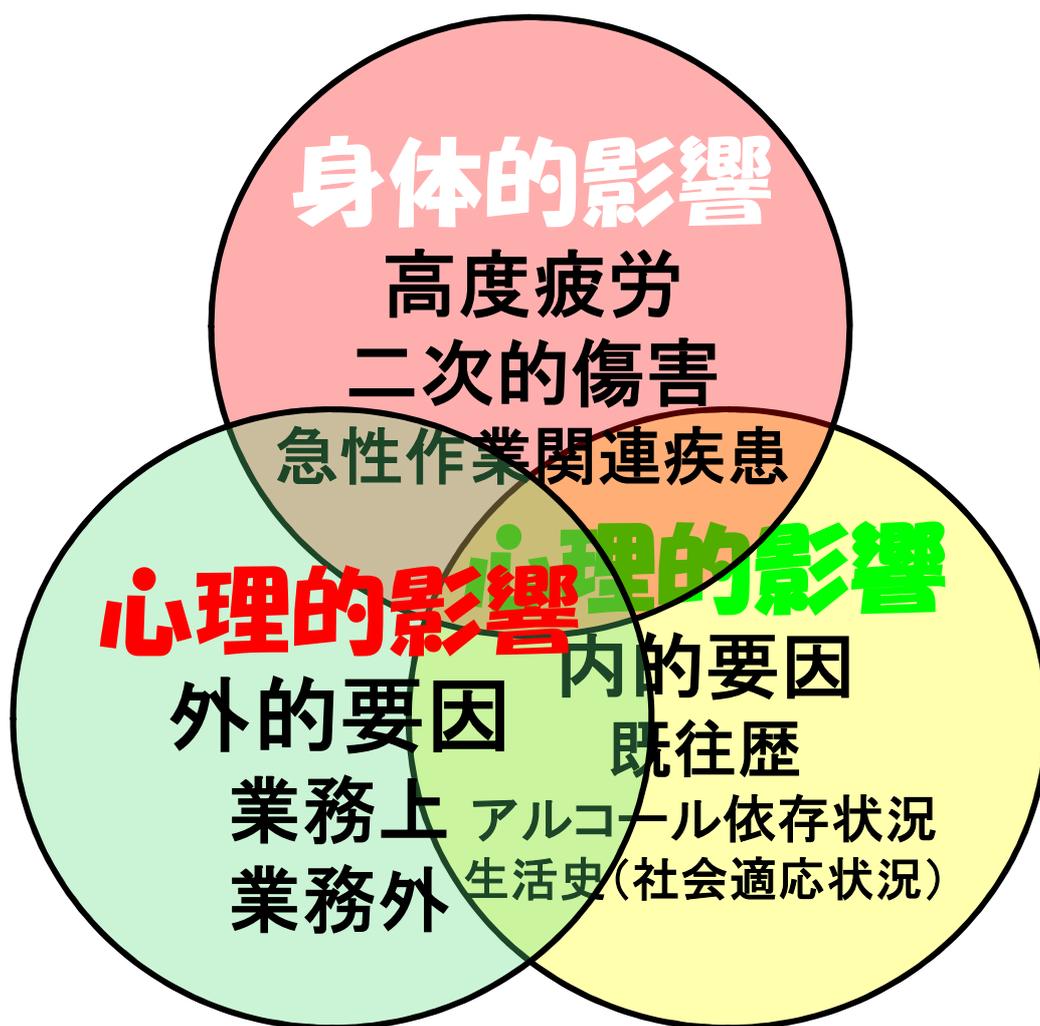
⇒ 慣れないこともあって、「もしロープが切れたら下敷きになってしまう」との強い恐怖を感じた

面談者の声

○ 口蹄疫の影響で、長時間労働が続いていた。現在でも23時頃帰宅。書類整理等もあり、まだ暫くは落ち着かない。8月27日(に予定されている終息宣言日)が口蹄疫終結の一つの節目になる(8月11日面接)。

○ 当時は疲れやすく、夜眠れなかった。次の日のことを考えたり、思い出したりしていた。今は眠れるし、疲れもない(10月8日面接)。

急性過重労働等が勤労者に 及ぼす影響



労災問題等関連の影響発生回避

災害時の急性過重労働等の 軽減・回避法（案）

1. (より)慎重な労務管理の実施

2. 身体的負担の軽減

- 1) 現場での作業内容や目的が不明のままの長時間待機の短縮/回避
- 2) 発生した支援業務の背景, 目的, 終了の目処, 達成目標等の提示
- 3) 支援中に発生し得る問題点とその回避策等の提供
- 4) 支援業務従事者間での意見交換や検討
(≡支援業務従事者間における知識の共有)
- 5) 想定される防疫業務全体と当該日の業務内容の明示

3. (身体的負担を増幅する)精神的負担の軽減/回避

- [1) 一部は上記2. 2)~5)により軽減/回避]
- 2) 疑問が容易に表明できる掲示板等の設置
それらに関する質疑やその内容のHP等でのフィードバック等

4. 問題の発生時に容易に相談可能な窓口の設置

考察・結論

勤労者において、特に公共団体職員においては、自然災害等の発生時に元来の業務に加えて、新たな業務への従事が回避できない事態も発生すると思われる。このような際には、

重大な労働災害等の発生を回避しなくてはならないとの認識を関係者全員が共有することが大切である。

個々の事業や労務への従事を余儀なくされた者への労務管理、特に、長時間の労務、または残業や、不規則な勤務、深夜勤務等の際して、疲労の増強に関与すると思われる因子を可能な限り軽減、あるいは、回避する配慮や工夫が必要と思われる。

私どもの周辺では

精神障害や

自死も

発生している

一方，本年9月現在

被災畜産農家の

50%強のみが

再開している

ご清聴

ありがとうございました